

<今日の目的>

「将来の見通しを立てられる相談支援」の実現に向けて、子育て世代が相談しやすい環境について意見交換を行う。

1グループの主な意見

1. 相談窓口はあるが、利用までのハードルが高い
 - ・子育て中の悩みは多いが、「どこに相談したらよいかわからない」。
 - ・「この悩みを相談してよいのか」「どの窓口が適切なのか」と考えてしまい、相談につながりにくい。
 - ・子育てに関することなら何でも相談できる総合窓口があると利用しやすい。
2. 親同士が交流できる場の重要性
 - ・同じ年代の子どもを持つ親同士が気軽に集まれる場所があるとよい。
 - ・相談機関に行かなくても、親同士の会話の中で悩みが解決することが多い。
 - ・特に転入者や知り合いが少ない家庭にとって、地域でのつながりづくりは重要。
 - ・子どもを遊ばせながら自然に交流できる環境が求められる。
3. 先輩世代とのつながりが役立つ
 - ・少し年上の子どもを育てている保護者の経験談が参考になる。
 - ・行政や専門家からの説明だけでなく、実際の子育て経験者の声に安心感がある。
4. 子育て支援情報の発信方法の工夫
 - ・制度や窓口の案内だけでは利用につながりにくい。
 - ・利用者の体験談や口コミが見える形にすると、利用しやすくなる。
 - ・「こういう悩みならここへ相談」という具体例を示してほしい。
5. 将来への不安への支援
 - ・子育て支援と聞くと、教育費など将来の経済的な不安を思い浮かべる。
 - ・子どもの成長に応じて必要となる費用や支援制度など、将来を見通せる情報提供があると安心できる。
6. ネットとリアルの両方が必要
 - ・ネットで情報収集する保護者も多い。一方で、実際に顔を合わせて話すことで得られる安心感や共感も大きい。
 - ・オンライン情報と地域コミュニティの両方を活用できる仕組みが望ましい。

<今日の目的>

「将来の見通しを立てられる相談支援」の実現に向けて、子育て世代が相談しやすい環境について意見交換を行う。

2 グループの主な意見

1. 相談窓口へのハードルを下げる必要がある

- ・子育てに関する相談窓口は存在しているが、実際に相談するまでの心理的ハードルが高い。
- ・特に若い保護者や子育て経験の少ない保護者は、相談先や支援制度の情報を十分に把握できていない場合がある。

2. 親同士が交流できる場が重要

- ・参加者の多くから、同世代の保護者との会話が子育ての不安解消につながった経験が共有された。
- ・専門機関へ相談する前に、親同士の情報交換や経験談によって悩みが軽減されることも多い。

3. 行政が交流のきっかけをつくることも有効

- ・「参加したい人だけ来てください」という形式では、参加しづらい人もいる。
- ・1歳児健診や乳幼児健診などの機会を活用し、同年代の子どもを持つ保護者同士が顔を合わせる機会を設ける方法が考えられる。
- ・保育園や学校の懇談会のように、行政が一定程度関与して交流の場を設定することで参加しやすくなる可能性がある。

4. 特に支援が必要な人への配慮が必要

- ・既に人とのつながりがある人は、周囲の保護者や知人に相談できる。
- ・コミュニケーションが苦手な人や地域とのつながりが少ない人ほど支援が必要である。相談支援の仕組みは、そうした人たちに届く形で考える必要がある。

5. オンラインを活用した「子育て知恵袋」の提案

- ・LINEやウェブ上で、匿名で質問や相談ができる仕組みがあるとよい。
- ・専門職だけでなく、子育て経験者も回答に参加できる仕組みが望ましい。
- ・同じような悩みを持つ人の相談事例や回答を閲覧できることで、自分だけが悩んでいるわけではないと安心できる。
- ・人との直接的な交流が苦手な人や、忙しくて交流の場に参加できない人も支援を受けられる といった効果が期待できる。